

国分寺青年会議所 2019年度
9月第二例会 第855回例会
令和元年9月25日開催

多文化共生を学び、ダイバーシティ社会へ

事業報告書

目 次

| | |
|---|-----------------|
| ◆本事業に至る背景 | 2 ページ |
| ◆当日の流れ | 3 ページ |
| ◆第一部 講演 「多文化共生を学び、ダイバーシティ社会へ」 | |
| ◇講師紹介 | 5 ページ |
| ◇講演概要 | 6 ページ ～ 7 ページ |
| ◆第二部 グループディスカッション 「国分寺市が多文化共生社会を目指すにあたり、私たちができること」 | |
| ◇グループディスカッション | 9 ページ ～ 27 ページ |
| ◇参加者アンケート集計結果 | 29 ページ ～ 33 ページ |
| ◆事業報告書発刊にあたって | 34 ページ |
| ◆当日の様子 | 35 ページ ～ 36 ページ |

本事業に至る背景

異なる文化・背景を持った市民同士が、互いの違いを認識し、多様性を受け入れ交流することは、地域に刺激を与え、新たな地域文化や価値観を創造する機会となります。国分寺市においては、近年の外国人人口の増加や東京オリンピック・パラリンピックにおけるベトナム国ホストタウンとして登録する等、異なる文化・背景を持つ市民同士が交流する機会は、今後、一層増加していくことが予想されます。

しかし、一方では、市が実施した調査(平成30年度実施)において、外国人にとって住みやすい街であると答えた割合は1割程度となっており、地域における多文化共生社会への意識は道半ばであると言えます。

国分寺青年会議所では、過去3年間、多文化共生社会の実現を目指すため、Bunji Global Festaを開催し、市民に対して多文化共生社会に対する意識啓発を行ってきました。

本年度は、過去3年間の事業を踏まえ、今後の機会を活かすためにも、地域における多文化共生社会の必要性や、市民が互いの違いを認識し、多様性を受け入れること(ダイバーシティ)について、より一層、学び考える場が必要であると考え本事業を実施しました。

令和元年12月吉日

国分寺青年会議所 2019年度
理事長 花沢 健太郎

当日の流れ

| 時間 | 内容 |
|-------|--|
| 18:00 | 開場・受付開始 |
| 18:30 | 開会 |
| 18:32 | 主催者挨拶（国分寺青年会議所第48代理事長 花沢 健太郎） |
| 18:35 | 第一部 講演「多文化共生を学び、ダイバーシティ社会へ」 （講師：羽衣国際大学教授 にしゃんた氏） |
| 19:55 | 休憩 |
| 20:05 | 第二部 グループディスカッション テーマ「国分寺市が多文化共生社会を目指すにあたり、 私たちができること。」 |
| 20:57 | アンケート記入 |
| 21:00 | 閉会 |

当日は、第一部講演と第二部グループディスカッションによる二部構成にて実施しました。

第一部では、羽衣国際大学現代社会学部教授でありタレントとしても活躍されている、にしゃんた氏を講師としてお招きし、「多文化共生を学び、ダイバーシティ社会へ」をテーマとした講演を行っていただきました。

第二部では、第一部の講演を踏まえ、「国分寺市が多文化共生社会を目指すにあたり、私たちができること」をテーマとして、参加者によるグループディスカッションを行い、代表して2グループに結果発表を行っていただきました。

第一部 講演
「多文化共生を学び、ダイバーシティ社会へ」

講師紹介

氏名：ジャヤシンハ・アーラッチラーゲー・
トシタ・デーワップリヤ・ニシャンタ

生年月日：1969年7月18日生

職業：羽衣国際大学現代社会学部教授、タレント

趣味：家族、コラム執筆、旅行、キャンプ、ワイン

特技：日本語、空手、落語、読経



略歴

スリランカ、キャンディ市生まれ。高校生の時に留学のため、父が家を担保に借りた7万円と片道切符を手に来日、第二の人生がスタート。

来日1年で、日本語能力試験1級試験に合格し、留学生第一号となる新聞奨学生をしながら文武両道の大学生生活を送る。在学中は全日本空手道連盟公認四段、公認指導員や審判員資格を取得。また多数の弁論大会で優勝し“スピコン荒らし”とあだ名がつく。立命館大学経営学部を学部総代で卒業。名城大学大学院に進み商学修士号、龍谷大学大学院で経済学修士号と経済学（民際学）博士号を取得。日本国籍取得。出家得度。タレント活動としては、近未来の日本を描いた映画『地球のへソ』で主演。ワッハ上方で高座デビューし、「初代社会人落語日本一決定戦」準優勝で異色の落語家として注目され、フジテレビ「ペケポン」などで人気となる。

スリランカ人、大学教授、落語家、タレント、随筆家、講演家、空手家、子育て父や僧など多くの顔をもち合わせ、その意味で「Mr. ダイバーシティ」などと言われることも。株式会社グローバルコンテンツの代表取締役、山口県立大学国際文化学部准教授などを経て、現在は主に、羽衣国際大学現代社会学部教授として務める傍ら、テレビ・ラジオなどで活躍。情報・報道番組のコメンテーターからバラエティ番組まで幅広く、「Yahoo!ニュース」などの書き手でもある。さらに全国各地で「違いを楽しみ、力に変える」（多様性と包摂：Diversity & Inclusion）をテーマとする「ダイバーシティ・スピーカー（多様性の語り部）」として講演活動を行う。

講演概要

●違いについて

年齢・性別・地域・顔等、何か違うだけで違いが存在します。

違いは文化である。違うという言葉の連想で良いことを連想するか、悪いことを連想するかです。

社会においては違いしかないという事を一人ひとりが把握し、受け入れて変化していくことが重要です。

●理想について

多文化共生社会における「理想」は、お互いの違いを受け入れて変化すること。

世の中はまだ違いを受け入れていないので、違いを受け入れるかどうか重要となる。

「違い」への対応については、それを受け入れるか・自身を含め変化するかによって、4つの類型に分類できます。それは「排斥・排除」「同化」「住み分け」「共笑」です。

違いがあることによって、他者を「排斥・排除」をすることは、最も避けるべき事例です。

「同化」は、相手を自分色に染めます。郷に入っては郷に従えと、教えるのは良いが相手も受け入れなければなりません。

●住み分けについて

国際交流の場でも人種による住み分けが生じているケースがあります。私（にしゃんた氏）がブラジルワールドカップの際に、飲食店で友達が出来ました。お店にいたのは全員ブラジル人でした。国際交流が進んでいるとされていたまちでも住み分けは起きていました。

●変化について

変化する・受け入れるという言葉は、共生・共存・妥協です。

世の中に存在する共生は排斥・同化・住み分けをひっくるめたものです

共生社会を目指すには、意識を高く持たないと落ち着いてしまいます。共に生きるだけでは不十分です。

共に笑わなければなりません。違いを楽しまなければなりません。学ばなければなりません。

つまり共学・共育・共楽等です。また、違いと付き合うには段階があります。排斥・同化・住み分け・共笑の順番で受け入れていきます。排斥・同化・住み分けで止まっていると問題の種まきをしているだけです。

●日本について

日本は鎖国の国ではありません。七福神を例にしますと、中国から3人、インドから3人の神様を日本人はかき集め、多様性のある集団を神様にしています。七福神で日本の神様は恵比寿天だけです。

毛利元就の3本の矢は、現在では3本でも折れてしましますが、これは密度の問題です。折れた原因は隙間にあります。力は束ねることが必要です。物事を考える方向が必要で、本数を増やす事が重要ではない。つまり違いを束ねることが必要です。強くなり、折れにくくなり、優しくしなやかになります。

●人権の講演に人が集められない理由

人権は自分の為でもあり、「手前良し」「相手良し」「周り良し」の「三方良し」の考えが必要です。哀れみではなくメリットとして受け入れる必要があります。違いは常に周りにありますが、自分事として関わろうとしていないだけです。

●共笑について

共笑には壁があります。心には無関心・思い込みの壁、制度には法律・条令・システムの壁、行動・言動にはコミュニケーションの壁、関わり方には正しい行いの壁があります。壁を破る必要があります。例えばハーフを外国では何というかです。ブレンド、ニューハーフ、今はダブルといいます。違いを否定的にとらえる日本は半分ですが、海外では2つです。

第二部 グループディスカッション
「国分寺市が多文化共生社会を目指すにあたり、
私たちができること。」

■ テーブル A

| | |
|--------|--|
| 意見① | 交流する機会を作る |
| 意見② | 学ぶ機会を作る |
| 意見③ | (外国の)人に焦点を当てたイベント |
| 残したい意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 同時通訳アプリの普及 ・ 副市長を1名外国籍にする ・ 全員パスポートをとる ・ 「子どもの様な意見を持つ」 |
| <意見> | <p>●交流する機会を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他人と接するコミュニケーションをとる ・ 国際系の学生を集めて国分寺市を活発にする ・ ボランティアの交流会があると良い ・ そもそも多文化共生がなぜ大切なのかを考える ・ 英語のボランティアに来てもらう ・ 学校にALTを増やそう ・ 小中学校の英語教育のボランティア ・ 教育機関が子供を国外に送りこむ <p>●学ぶ機会を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本以外の文化を学ぶ機会を作る ・ 日本の文化を学ぶ機会を作る ・ 日本語勉強会を開く ・ 大学等を中心に多文化の発表の場を設け参加したい ・ 英語を話せるようになる ・ 外国人と交流する機会を作る ・ 国分寺の良さを英語でプレゼン ・ 言語学校を充実させる ・ 違う国の文化を教え合う機会をつくる |

●(外国の)人に焦点を当てたイベント

- ・外国の料理教室を開いて、外国の料理をみんなで作る
- ・母国語の講座
- ・外国人観光客を呼ぶ、目玉を作る
- ・駅前コンコースに「CAN I HELP YOU?」プラカードと共にデスク開設
- ・国分寺市の範囲を知りたい
- ・外国人の方と一緒に国分寺を歩く
- ・国分寺の観光地と一緒に巡る
- ・外国人に日本で生活するすべの悩み相談を聞く
- ・外国の人にウケてるお店MAPを作る
- ・国分寺まつりに多国籍ブースを作って皆で参加する
- ・年に1度ウェルカムパーティーを行う
- ・コスプレ
- ・大運動会
- ・飲み会
- ・多文化共生のテーマにして祭りを国分寺市の公園で開く
- ・地域の清掃活動に参加する
- ・すでに行われているとは思いますが大運動会をやりたい
- ・市内の外国人の皆さんのお子様と日本の子供達とのイベント
- ・新しい遊びを一緒に作る
- ・大合唱をやりたい
- ・国分寺の再建
- ・国分寺市に在住している外国人との交流会
- ・外国籍親子+日本親子参加のキャンプ

■ テーブルB

| | |
|--------|----------------|
| 意見① | 異文化コミュニケーション |
| 意見② | 言葉の壁をなくす |
| 意見③ | 外国人も住みやすい環境づくり |
| 残したい意見 | |
| <意見> | |

●異文化コミュニケーション

- ・多文化情報を(市内の)小学生、中学生に(対面して)伝える
- ・多くの外国人と国分寺市民との交流の場を持つ 祭り、食事など
- ・町内の行事に参加してもらい、祭り、夏季行事、スポーツ
- ・色々な国や地域の食文化を学ぶ場を設ける(フードフェスタ等)
- ・外国のテレビを観られるようにする
- ・色々な国や地域のお祭りを開催する
- ・外国の伝統文化を体験できる場を設ける
- ・日本以外の国の文化を知ることができる機会を設ける(講演会等)

●言葉の壁をなくす

- ・Language Exchangeのパートナーを市が仲介する
- ・海外留学を無料で行けるようにする
- ・外国人の人でもすみやすいよう、英語表記のものを増やしたりする
- ・公用語を英語にする
- ・言葉の壁コミュニケーションを考える
- ・色々な国の言葉で簡単な挨拶を学べる場を設ける
- ・外国の文字を学ぶ場を設ける
(無料で参加できる語学教室等)
- ・無料の外国語教室をやる

●外国人も住みやすい環境づくり

- ・共働き家庭でも安心して子どもをあずけることができる場所を作る
- ・子育ての手助け、送り迎えをする
- ・子育ての協力援助体制確立する
- ・外国人学校をなくす
- ・外国企業を誘致する
- ・外国人の相談窓口を増やす
- ・自治会・町内会に入っただき、行事に参加していただく
- ・国分寺の良さを他県や外国人などにアピールして、住んでもらえるようにする
- ・引っ越して来た人などにサービス をするなどして、色々な県の人、国籍の人を集める
- ・外国人の方が日本に来て、どういうことが困るのか 知ってもらう
- ・日本への出入国を自由にする

■ テーブルC

| | |
|--------|--------------|
| 意見① | レッツコミュニケーション |
| 意見② | イベント！！and交流 |
| 意見③ | 食と酒 |
| 残したい意見 | 交流学习 |
| <意見> | |

● レッツコミュニケーション

- ・日本人も国語を勉強する勉強会
- ・日本語川柳を学ぶ
- ・日本に来ている外国人とコミュニケーションを取る為
簡単な英語・外国語を喋れるようにする
- ・瞬間翻訳イヤホンマイクをつくる
- ・駅周辺の看板を多国籍対応にする
- ・メニューブックを全て日本語・英語・中国語などに
- ・キョロキョロしている外国人に積極的に話しかける
- ・全世界共通のジェスチャーを作る
- ・実際によその国に行ってみる
- ・歴史の勉強会をする
- ・宗教の勉強会をする
- ・他国の文化の体験
- ・日本の文化だけでなく他国の文化を取り入れる
- ・日本の文化を日本人が外国の文化をその国の人々に教え合える場所をつくる
- ・子供を対象に文化を学ぶ交流会をする
- ・交換留学

●イベント！！ a n d 交流

- ・スポーツ大会を開催する
- ・国別対抗フットサル大会をする
- ・自治会が主体になっての食事会やイベント
- ・仕事のマッチングを助ける交流会をする
- ・日本の祭り、他国の祭り等紹介するイベントを開催する
- ・各国のリアクションを比較して違いを楽しむ
- ・民族衣装のファッションショー
- ・工芸・クラフト教室の開催
- ・ジェスチャーだけの合コンを開催
- ・外国人と日本人を交えてハッカリン的な

●食と酒

- ・男女問わず色んな国の人と飲み会
- ・異国の料理会
- ・お国自慢の食事会をする
- ・国ごとのグルメイベントを開く
- ・料理教室を開催する
- ・ワインパーティーをする
- ・世界のビールでビアガーデン

■ テーブルD

| | |
|--------|---------------------|
| 意見① | 情報の充実化 |
| 意見② | 教育 若い世代からの意識改革 |
| 意見③ | 交流 コミュニケーションツールをつくる |
| 残したい意見 | |
| <意見> | |

●情報の充実化

- ・住むところ、働くところ、避難場所を案内する機関の充実
- ・街の名所に外国語のプレート
- ・外国語の日常単語用紙を作成する
- ・福祉施設の英語ロードマップ
- ・どの人でもすぐに見てわかる表示物を作る(絵や矢印)
- ・翻訳ができる機械(アプリ)を各地に置く

●教育 若い世代からの意識改革

- ・より良い変化をもたらす力を人々に与える為に成長と発展の機会を提供する
- ・学生を対象とした意識変革のイベントをする
- ・自分の店で雇う
- ・各地域の子を雇う

●交流 コミュニケーションツールをつくる

- ・国分寺を知る町歩きを一緒にする
- ・国分寺らしさを知って伝える
- ・お互いを知るためにそれぞれの文化をお互いを知る機会を作る(お祭り、行事など)
- ・食を通してお互いを知る
- ・お祭り等、地域の人々が繋がる事業を継続的に行う
- ・地域との交流
- ・自分たちが知った事を伝える事(周囲に、近所に、友人に)
- ・JICA、JETRO等(国交のある)国と国を繋げる機関と連携する
- ・オリンピック、パラリンピックのパブリックビューイングのイベント
- ・ホームパーティーをする
- ・挨拶をする
- ・様々な団体のつなぎ役をする
- ・駅とかで困ってそうなら声をかける
- ・困ってることランキングを駅に貼る
- ・スポーツイベント観戦
- ・多国籍の飲み会を開く
- ・異業種交流会
- ・外国人を対象とした街コンの開催
- ・文化を知るクイズ大会をする
- ・外国の方がやっているお店に行く
- ・彼女をつくる
- ・食の交流イベントをする
- ・同じ地域に住む方々同士の交流

■ テーブルE

| | |
|--------|------------------|
| 意見① | スポーツ文化で交流 |
| 意見② | 飲食文化で交流 |
| 意見③ | コミュニケーションを積極的にとる |
| 残したい意見 | 発信 SNS等を使い間口を広げる |
| <意見> | |

●スポーツ文化で交流

- ・共にスポーツをする
- ・異業種交流会を行ってみる
- ・国際交流会に参加する
- ・スポーツ観戦
- ・外国の方のイベントに参加してみる
- ・他国の習慣を学ぶ
- ・日本の文化を伝えるだけでなく相手の国を知れる事業
- ・市内で行われている様々なイベントに参加する
- ・地元の祭り等にも積極的に海外の方を巻き込む
- ・民間施設などの協力イベント
- ・交流会やパーティーを実施
- ・外国の方の家にホームステイ
- ・学校に協力してもらい外国の学校の文化、祭りなどをやる
- ・映画やドラマなどを観る 音楽を聴く
- ・珍しい世界大会を呼ぶ
- ・各国のコミュニティのある地域を作る
- ・国分寺でミニ世界大会（スポーツ、芸術など）
- ・子供を通して親子イベントをする
- ・異文化紹介イベントの実施

●飲食文化で交流

- ・外国の方の飲食店等に行ってみる
- ・海外出身の人の飲食店に行ってみる
- ・海外料理ガイドブックがあったら良いな
- ・市内の外国人料理屋を調べてみる
- ・給食に世界の料理を出して子供の頃から垣根を外す
- ・市内の外国人料理屋を友人に紹介してみる
- ・知らない料理を食べてみる
- ・各国の食を集めた屋台村を作る
- ・外国の飲み屋に行ってみる
- ・飲食のバイト先などに外国人対応のメニューを置く

●コミュニケーションを積極的にとる

- ・英語を学ぶ
- ・とりあえず英語
- ・海外の人を見たら話しかけてみる
- ・国分寺市にいる外国人の方々にインタビューする
- ・大学で外国人と触れ合える講義をとる

●発信 SNS等を使い間口を広げる

- ・共通の趣味の友達を外国にも作る
- ・一緒に写真を撮る、アップロードする
- ・活動や現状の発信
- ・まず交流があることが分からない場合が多いので、告知などの場を増やす

●その他

- ・外国人を雇う
- ・幅広い年代の方々を雇う
- ・現状確認アンケートの実施
- ・市内に転入してくる海外の方に最初に各国のアピールポイントをリサーチして公開

■ テーブルF

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 意見① | ブラジル料理から食べる |
| 意見② | 映画やスポーツを通じた交流 |
| 意見③ | 他国における多文化共生を知る |
| 残したい意見 | 市と海外のまちが姉妹都市提携をし、交換留学などの交流事業を実施する |
| <意見> | |

● **ブラジル料理から食べる**

- ・ いろいろな国のレストランに行って食事を楽しむ
- ・ 食を通じた「多文化共生」推進（美食は国境を越える）
- ・ 現地の人が経営しているお店などに行って積極的にコミュニケーションをとる
- ・ ブラジル料理等を食べる
- ・ 飲食店などでの外国語版メニューを使う

● **映画やスポーツを通じた交流**

- ・ 様々な国（文化）の映画を見る
- ・ 海外映画観賞会を行う
- ・ 小学校などで子供たちが、外国の文化に触れることが出来る行事を行う
- ・ 外国の文化に触れられるお祭りを行う
- ・ 大学に通う留学生との交流会を行う
- ・ 日本の文化（例えばお祭り）を経験してもらう
- ・ 多文化共生を目的としたお祭りなどを開催し、色々な国の料理を現地の人が屋台を出したり、色々な国の言葉でコミュニケーションをとるブースをつくる
- ・ 国分寺市在住外国人による料理教室を開催する
- ・ いろいろな国の料理を持ち寄って、皆で食べるパーティを開く
- ・ 各国のマイナースポーツを知るスポーツ大会を開催する
- ・ 商店街の多文化を広める
- ・ 外国人の方に積極的に話しかける
- ・ 日本で暮らす外国人の方を助けるボランティア活動に参加する
- ・ 言葉がわからないと思わずに自分から交流を図る
- ・ 一緒にスポーツをしてみる
- ・ ラグビーワールドカップの会場に行く

●他国における多文化共生を知る!

- ・他国における「多文化共生」の勉強をする。
(例：マレーシア、インド、インドネシア、スリランカ等)
- ・にしゃんた先生が話していた、ブルガリア人のYES, NOの首の振り方の違いのように、色々な国の違いを楽しく学べる感じの会をつくる

●日本の生活を知る

- ・多文化の隣組をどんどん作り、日本と多文化のコラボを生み出す
- ・衣食住文化の交流を図る（生活習慣や様式を知り理解する）
- ・「違い」について考える機会を作る
- ・交通ルールの勉強会を開く（みんなが安心安全快適に過ごせるように取り組む）

●言語コミュニケーション

- ・外国語を学ぶ
- ・駅にあるマップのデジタル化やタッチパネルにより言語を選択できるようにする
- ・日本語のコミュニケーションを勉強できる機会を増やす

■ テーブルG

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 意見① | L e t ' s s t u d y ! |
| 意見② | L e t ' s c o m m u n i c a t i o n ! |
| 意見③ | L e t ' s t r y ! |
| 残したい意見 | L e t ' s a r r a n g e ! |
| <意見> | |

●L e t ' s s t u d y !

- ・外国語教室に通う
- ・外国語を学ぶ
- ・その国の文化を知ること
- ・異文化を学ぶ
- ・外国の方と触れる機会を作る
- ・英会話教室の開催（夜の時間帯、若者～中年世代）

●L e t ' s c o m m u n i c a t i o n !

- ・市内巡りを開催（子供たち対象、英語、中国語、韓国語）
- ・お花見の会実施（紅葉狩りも可）
- ・オクトーバーフェストを開催
- ・ともに笑えるイベントの開催（コメディや落語）
- ・外国人の文化を紹介するイベントを開催する
- ・日本映画を外国語吹き替えで上映する
- ・学生が多く参加できるイベントの開催
- ・ターゲットを絞って何かを開催する
- ・海外の文化、日本の文化の交換会を開く
- ・イベント、勉強会を開く
- ・外国料理だけの屋台村を行政主体で開催する

●Let's try!

- ・外国人の方と飲みに行く
- ・外国人と付き合う
- ・オンラインゲームをやる
- ・共通の興味の会を開く
- ・外国の料理を食べに行く
- ・外国の食事を食べる

●Let's arrange!

- ・国分寺に住む魅力をわかりやすい資料にまとめる
- ・外国人の方との意見交換会を実施する
- ・行政による、家庭の支援ができる窓口を作る
- ・各地域にあるルールやマナーをわかりやすく資料にまとめる
- ・WEB上でのQ&Aができる場所を作る
- ・日本の文化を知りたい人向けの教育教室を作る
- ・小学校等で外国語のみ使用可能な時間を作る
- ・外国語を話せる、話してみたい人のボランティアを企画
- ・ゲストハウスを作り宣伝する

■ テーブルH

| | |
|--------|-----------|
| 意見① | コミュニケーション |
| 意見② | 食文化 |
| 意見③ | 初体験ツアー |
| 残したい意見 | スポーツ・音楽 |
| <意見> | |

● コミュニケーション

- ・ 情報を発信する方法や手段を工夫する
- ・ 外国人向けサービスの充実化
- ・ 海外の昔話や逸話の講演会を行う
- ・ 笑顔を磨く
- ・ 相談窓口を設ける
- ・ 自発的に声かけをする
- ・ 外国のことわざを学ぶ
- ・ それぞれのコミュニティの紹介リストを作成する
- ・ 外国語で国分寺MAPを作成する
- ・ 各言語の生活マニュアルを作成する
- ・ 家族や職場で今日聞いた話を話題にする

● 食文化

- ・ 色々な国の料理を食べてみる
- ・ 色々な国の言葉で【ビール下さい】を覚える
- ・ 外国の方が講師をする料理教室を設け、皆で作って食べる会をつくる
- ・ 海外のグルメイベントを国分寺でも行い、異国を実感してもらう

●初体験ツアー

- ・団体旅行を企画する
- ・街中にポスターを貼り、外国語で【こんにちは】など
- ・外国のファミリーと自分のファミリーと一緒に国分寺ツアーをする
- ・国分寺市の歴史を知ってもらい、好きになってもらえるようなイベントをする

●スポーツ・音楽

- ・ダンスパーティー等で交流する（ジャンル関係なし）
- ・外国の方が参加しやすいスポーツ大会を開催する
- ・東京オリンピックなどの外国人選手を招致して、スポーツ交流や講習をしてもらう
- ・国分寺は東京パラリンピックでベトナムのホストタウンなので、ベトナムのお祭りやイベントを行う
- ・春に桜を見る会などを開催する
- ・民族衣装試着会を行う
- ・その国の歌や楽器などのイベントを開催する

●その他

- ・シェアハウスを増やす
- ・日立やリオンに来ている技能を持った外国の方と日本の技術を共に見学する
- ・市の協力を得てインバウンドを呼ぶ
- ・認知症の人たちと一緒に暮らせるようにする
- ・お互いの宗教を知ったり、語る会
- ・障害者とのスポーツ本音トークイベント
- ・防災について座学でないイベントを行う

■ テーブル I

| | |
|--------|------------------------------------|
| 意見① | イベントを通じ理解し合う |
| 意見② | 外国人の方々と共に分かち合う機会 |
| 意見③ | 国籍に関わらず住みやすい町を 大人から子供まで知り合い助け合う |
| 残したい意見 | あいさつはブンジ!! 行政からのアプローチの強化 |
| <意見> | |

● イベントを通じ理解し合う

- ・ インターナショナルブンジコン開催→交流会
- ・ 異文化スポーツ大会開催→集まり易い競技
- ・ 国分寺祭りにおいて交流イベントを行う
- ・ BGF
- ・ 国際フェスティバルを実行委員会方式で開催する
- ・ 地域の盆踊りに外国人の方を招待する
- ・ (こく) ベジで楽しむ日本料理の会
- ・ 各国ママのランチパーティー
- ・ オリンピックに向けベトナムの人達と集まってイベントをやってみる
(ママ友教室、ベトナム食パーティーとか)
- ・ 1%から広がるWorld Weekの開催
- ・ 各国料理を持ちよるパーティーをひらく
- ・ 外国で盛んなスポーツ体験を行う
- ・ 外国人学校と学校(日本)との交流会を行う
- ・ 子どもたちをメインターゲットとしたイベント祭り
- ・ 運動会を行う
- ・ 日本食と外国食との人種によるおいしさの差を感じるイベント
- ・ 外国人と共に煎茶教室をして味の感じ方の違いを感じる

●外国人の方々と共に分かち合う機会

- ・外国人も共に抹茶の味をどう好むか好まないか、日本人との味覚の違い
- ・日本の作法と外国の人の感じ方の違いを考える（意見交換）
- ・多国籍飲食店めぐりツアー
- ・日本人のための日常英語教室
- ・日本語食活イベント
- ・多国籍料理の店に行く
- ・外国語を学ぶ
- ・異文化交流会を開く
- ・外国料理の料理教室に通う
- ・外国の方と友達になる
- ・自国の文化・町を知る。（文化を知る為に）
- ・どんどん人と接する機会を設ける
- ・自己啓発→ex. 英会話、他言語
→ネットでのスカイプ会話 外国の人との会話コンプレックスの殻を破る
- ・自己啓発セミナーに行ってみる

●国籍に関わらず住みやすい町を

～大人から子供まで知り合い助け合う～

- ・不動産の契約の際に日本の慣習を伝えられる
- ・大家さんからの住人 i n f o 発信
- ・外国人の方々とのオリジナルあいさつを決める
- ・外国人でも立ち寄りやすい場所（店）を作る
- ・地域コミュニティに外国人にも入ってもらう
- ・外国人の子供たちが関わる悩みを相談できる期間を作る
- ・近所の外国人に声を掛けるようにする
- ・近所の外国人の家へのホームステイ
- ・外国人をイベントに誘う様にする
- ・外国の方に町であったら積極的にあいさつする
- ・友達になった外国人の方にそれとなく日本の習慣を話す

●あいさつはブンジ!!

～行政からのアプローチの強化～

- ・ゴミ分別のアプリは多言語対応しているのもっと周知する
- ・ブンジとブージを姉妹都市にする!!
- ・災害・緊急時の24時間対応の窓口を作る
- ・国分寺駅の改札前に多言語対応の案内所を作る
- ・お鷹の道観光のパッケージ化（都心より30分で心のオアシス!）
- ・留学生の受け入れの数を増やす
- ・外国人が相談できる窓口をつくる
- ・街中での目に入る物を多言語化する
- ・国分寺の名所案内版プランを行政・観光協会 e t c で皆でつくる

●その他

- ・電車の中で多文化共生とつぶやく

■ テーブル J

| | |
|--------|--|
| 意見① | 交流 スポーツや観戦ツアーや飲み会など外国人と接する機会を増やす |
| 意見② | ビジネス 一緒に仕事をして文化の違いや新しい事業を展開していく |
| 意見③ | 学び コミュニケーションの基本である【言葉】を学び、 文化を知るきっかけにする |
| 残したい意見 | 身近な生活 |
| <意見> | |

●交流

～スポーツや観戦ツアーや飲み会など外国人と接する機会を増やす～

- ・新大久保で交流会を行う
- ・ゲストハウスを行う
- ・外国人向けのショップをつくる
- ・世界的にPLAY人口の多いゲーム大会を開催する
- ・外国籍の方が集う飲食店を増やす
- ・外国籍の方と恋愛をする
- ・多文化合コンを開催する
- ・CLUB（踊る方）をつくる
- ・HUB（飲食店名）で交流会を行う
- ・ホームステイを行う
- ・スポーツ（フットサルなど）を通じて交流する
- ・スポーツ観戦をして一緒に盛り上がる

●ビジネス

～一緒に仕事をして文化の違いや新しい事業を展開していく～

- ・技能実習生を雇用する
- ・一緒にビジネスをする（実際にしています）
- ・市内情報のtwitter botを実施する（マイナー言語と英語）

●学び コミュニケーションの基本である【言葉】を学び、

～文化を知るきっかけにする～

- ・授業にて外国文化を学ぶ
- ・料理教室で外国のご飯を食べる
- ・子供を外国語教室に通わせる

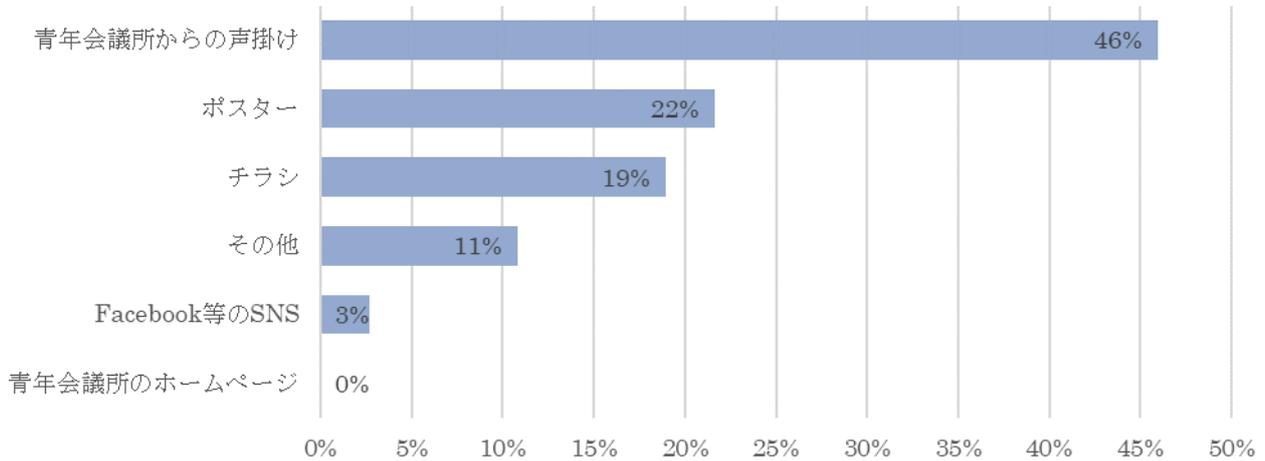
●身近な生活

- ・日高屋（飲食店名）では外国籍の従業員を雇っているので、食べに行く

参加者アンケート集計結果

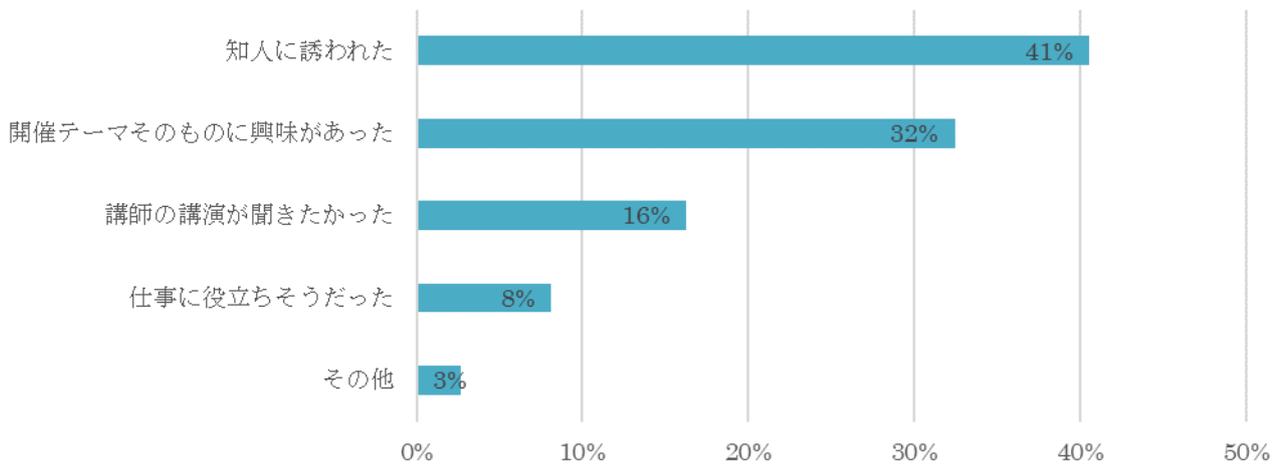
■アンケート①

この講演をなにで知りましたか



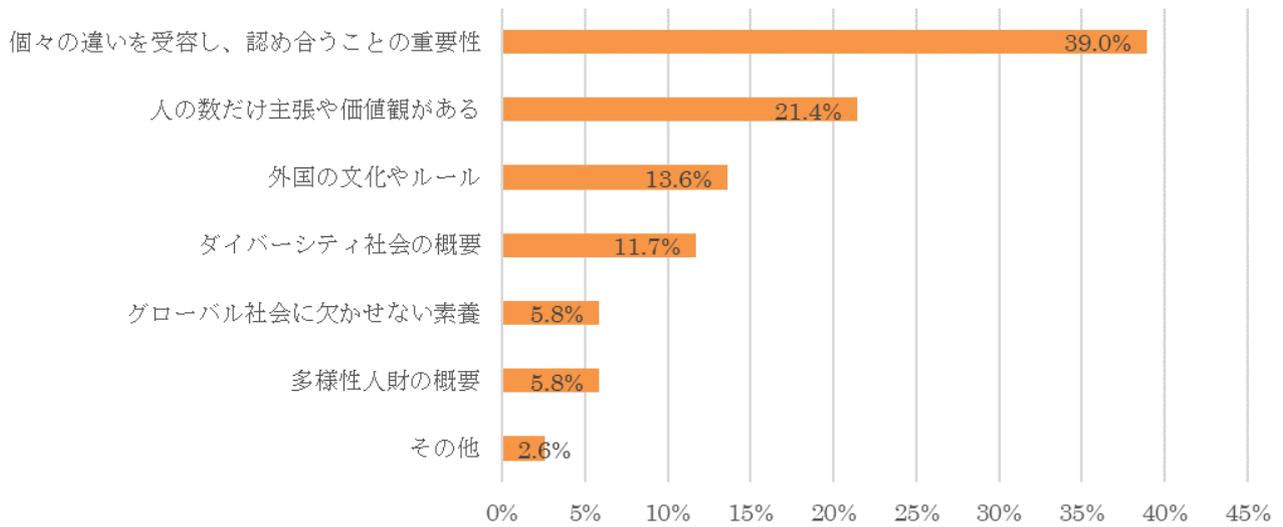
■アンケート②

本講演の参加動機について教えてください



■アンケート③

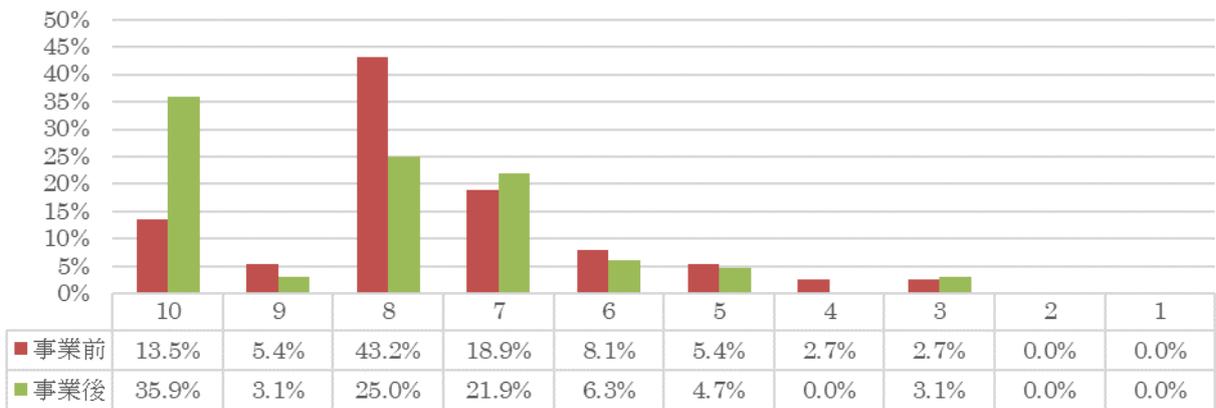
本講演の内容で特に印象に残ったことについて教えてください
(複数回答可)



■アンケート④ (セミナー前及び後にアンケート)

文化や習慣などの違いに関心が持てましたか

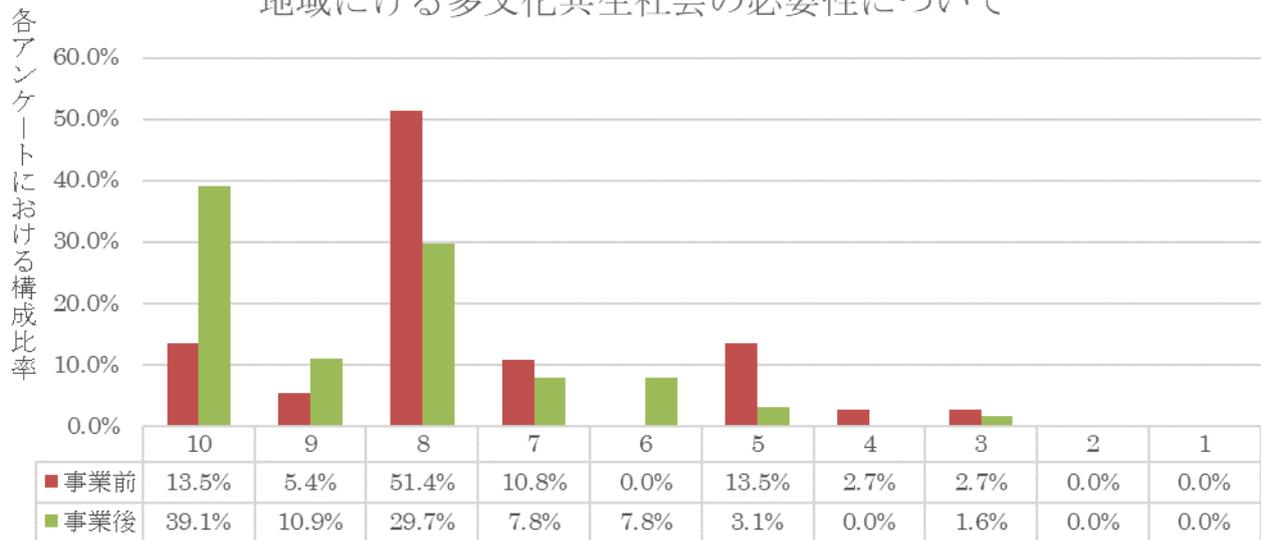
各アンケートにおける構成比率



評価項目 (そうだと思うほど、10に近い評価となります。)

■アンケート⑤（セミナー前及び後にアンケート）

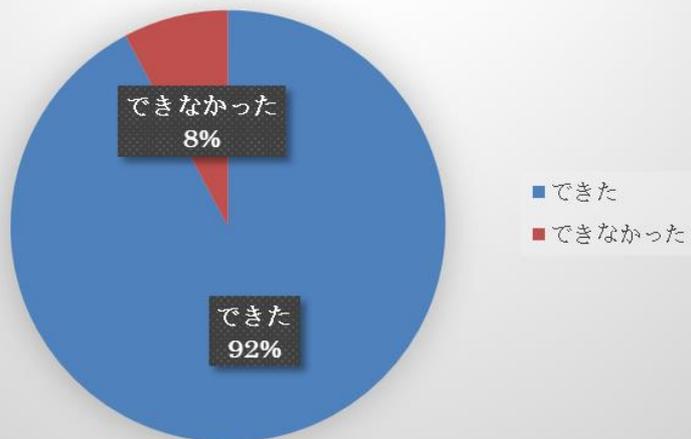
地域における多文化共生社会の必要性について



評価項目（必要だと思えるほど、10に近い評価となります。）

■アンケート⑥

本事業を受けてダイバーシティについて
学ぶことができましたか



■アンケート⑦

多文化共生社会やダイバーシティを目指す上で、今後、地域に何が必要だと思いますか（自由記述）

- 外国人が苦手だという、心の壁を取り払う行動
- 共笑（ともえ）
- 受け入れる心
- 受け入れる体制
- とにかく異文化に触れる機会を作る
- 他国を知る、学ぶ、理解する機会と素養
- 情報やコミュニケーションツールの充実化
- ビジョンの浸透
- 他者を受け入れ、尊重できる「心の余裕」
- 個々に繋がりを作り輪を広げていく動きをとる！
- 定期的に顔を合わせる機会、言葉や文化に頼らない交流
- 愛とBGF（Bunji）Global Festa）
- 自己肯定感を各人が持ち、それを認識し合うこと
- 国分寺市に動いてもらえるように働きかける
- まずは自分を知り、相手を受け入れる事
- 違いを楽しむことを、人種以外でも
- 身近な日本人同士でやるのが真の多様性社会に繋がると思う
- お互いの個性や文化を理解し、歩み寄れるようになること
- 壁を作らないようにしなければならない
- 今、興味を持っていない人の目にも着くような形での情報発信
- 今のままだと興味のある人だけの知識や興味が上がっていただけだと思うので、違いを肯定的に受け止める心構え
- 行政とまちの諸団体が一体となって取り組む姿勢
- 外国人との交流
- 間口を広げること
- 受け入れる姿勢と受け入れてもらう努力
- 他国の方と交流を率先して出来る場所
- 食と酒
- 交流の場や機会を捉えて理解を深めていくことが求められると思います
- 気軽に触れ合う機会や一緒に考えたり、楽しんだりする機会が増えること
- 美味しいものは美味しい
- 点などから交流する
- 現状把握と対策（イベントや新規案の実施）と活動発信など
- 多様性の多様を海外だけに絞らない柔軟な思考
- 事業に携わる極少数の人間ではなく、その他の関わりのない人間が多文化に理解が足りていない現状を把握
- より能動的に問題解決に取り組む姿勢を気づいていくことが大切だと思った
- 発想力と行政の協力！
- 外国の人々と気軽に話したり、交流して一緒に楽しむ機会
- まずは日本人の心の壁を壊すこと
- 日本主体の事業は多くあるので、日本にしながら外国の文化に触れられる事業の構築
- 受け入れる土壌

- 多文化と触れ合えるイベントや交流会
- 一方的にではなく、それぞれがお互いに興味関心を持つ事
- 講演会や勉強会、もっと増やして伝えて行けたら
- 国籍、場所、立場、年齢関わらず共笑で生きていくことが大切だと思いました
- 自分や周囲と比べるからこそ嫌な所ばかり目が行くのではないのでしょうか
- 若い人にも興味を持ってもらう、参加したい、やってみたいと思えるイベントでもいいし、ゲストハウスのような海外からの人を受け入れる機会があるといいと思った
- 相手の気持ちをお互い考える
- 日本人から提供することに重きをおくのではなく、むしろ外国人から日本人に成長と発展の機会を提供することによって実現するダイバーシティもあるのではないか
- 「違い」について考えを深める
- 新しい考えや価値観を取り入れることに不安を感じさせない安定した社会の仕組み
- 外国籍の方を含め、他者に意識を持つこと。自分も相手も周りもメリットがあるのかを考えていくきっかけ。
- 外国人を受け入れる許容
- 無知による排除をなくすには、異文化への相互理解が必要になります
- お互いコミュニケーションの場を持つことが大事だと思いますが、その機会が人によって（情報の入りやすさの違いで）増減するという課題は、地域の努力で解決できると考えます。また、JCも行政と連携を取る等して、その一助になれるのではないかと思います。

～アンケートまとめ～

① 【参加の経緯について】

本事業の参加者については、「国分寺青年会議所からの声かけ（46%）」をきっかけとした方が大半を占めており、「知人に勧められたこと（41%）」、「講演テーマそのものに興味があった（32%）」ことを動機として参加していただいた方が、大半を占めました。

当初は、学生を対象に広報計画を作成し実施しましたが、計画の精度が甘く、学生の参加につながりませんでした。このことから、国分寺青年会議所メンバーが個別に声掛けを行い、参加者を募集したことによる結果となります。

② 【多文化共生に対する意識について】

参加者の多文化共生に関する意識調査について、事前アンケートの結果を見ますと、外国との文化や慣習の違いへの関心（10段階評価の平均値7.56）や地域における多文化共生社会の必要性（10段階評価の平均値7.57）について高い結果となりました。このことから、今回参加いただいた世代については、多文化共生社会やダイバーシティに対して、日頃から、関心や理解がある世代であることがわかりました。

③ 【事業に対する評価について】

事業後アンケートにおいて、参加者の92%が「ダイバーシティについて学ぶことができた」と回答していただきましたが、8%の方にとっては「学ぶことができなかった」結果となってしまいました。これは、第一部講演の内容と第二部ディスカッションのテーマ設定にズレが生じてしまい、講演を踏まえたディスカッションを行えなかったことから、学ぶ場が不足したことが原因と考えます。

事業報告書発刊にあたって

本年度の国分寺青年会議所では9月25日にc o c o b u n j i プラザリオンホールにて「多文化共生を学び、ダイバーシティ社会へ」を開催し、当日は61名の市民の方に参加していただきました。

第1部講演では羽衣国際大学教授にしゅんた氏を講師としてお招きし、「多文化共生を学び、ダイバーシティ社会へ」をテーマに基調講演をいただき、第2部グループディスカッションでは当日参加いただきました市民の皆様と国分寺青年会議所メンバーにて「国分寺市が多文化共生社会を目指すにあたり、私たちができること」をテーマに討議し、グループごとにまとめていただきました。

この度、当日の講演やグループディスカッションの内容について、多くの方に知っていただき、地域における多文化共生社会、ダイバーシティ社会の一助になればと思い、事業報告書を発刊いたしました。

異なる文化や背景を持った市民同士が、互いの違いを認識し、多様性を受け入れ交流することは、地域に刺激を与え、新たな地域文化や価値観を創造する機会となります。

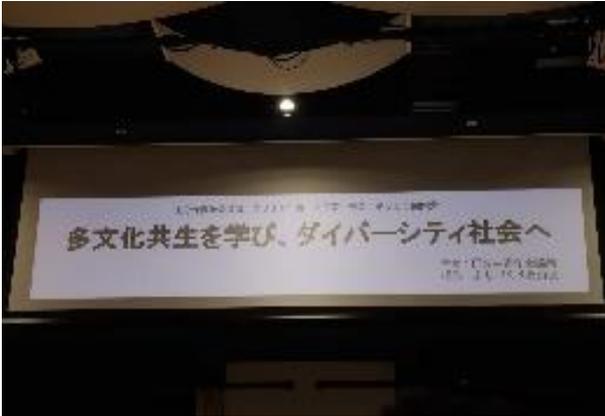
多文化の相互理解が向上することで、外国人の地域コミュニティへの参加が促進されると考えており、それにより押し付け合いではなく互恵ある、多文化共生のまち国分寺として、ますます発展していくことを期待しております。

本事業の実施、報告書の発刊にあたり、ご協力いただきました皆様に対して、改めて感謝いたします。

令和元年12月吉日

国分寺青年会議所 2019年度
まちづくり委員会
委員長 高仲 栄次

当日の様子



<横断幕>



<司会挨拶>



<主催者挨拶>



<会場の様子>



<にしゃんた氏講演>



<受講者様子>



<にしやんた氏講演>



<ディスカッション>



<にしやんた氏講演>



<チーム発表>



<受講者からの質問>



<受講者からの質問>